

昭和45年度体育会

各部、同好会活動報告

野球部



クラブ紹介

主将 田中一成

我が野球部の参加している連盟は、東京新大学リーグ野球連盟である。連盟自体は、東京における公認リーグ即ちそのリーグでの優勝校が全国大会への出場権を得るところの一つである。他の公認リーグは皆さんご承知の東京六大学・東都・首都リーグである。現在我々は新大学リーグの一部である。一部には、学芸大・水産大・電通大・工学院大・日大農獣医と我が校の6校がある。次に、学校での立場としては、小金井グランドで週3日程度の練習を行なっている。そのほか、一部優勝・全国大会を目指して個人個人が努力をしている。我が部の雰囲気は、運動部にしては珍らしく先輩後輩が気軽に話し合え、良い所は先輩の意見でも後輩の意見でもとりいれていくというものである。これは、長い間かかってやってきた先輩達の御尽力によるものであると思うし、大学生にもなって考え方で押さえられるというのではなく、まちがっていると思われるからである。かといって厳しいところもある。即ち、練習にしろ試合にしろ休むところは休み、気合をいれていくところは思いきって気合を入れるという精神が我が野球部の根本である。ここで現在の我が部の人員は9人という状態である。野球をやれる最低の人数である。ここ数年、いつも人数がたらずく苦労をしている。やっと先輩達の力で二部から一部に昇格し、昨年はあわや優勝かと思うところまで進歩してきた我が部をますます進歩させていくには新入生及び若い人たちの力がどうしても必要である。全国大会に出場し、東京電機大学という名を全国の人たちに知らせるために皆でがんばろうと思っている。何にしても我が部は、一部優勝・全国大会出場を目指して練習を続いているのである。

活動報告

春季合宿（4月1日～7日） 小金井クラブハウス

16名参加 春季リーグを目指して基本体力及び実戦力養成

東京新大学野球連盟

春季リーグ戦（4月18日～5月30日）

一部 学芸大 ② - 8 電機大（於工学院大）

" " ⑫ - ⑩ " (")

工学院大	9 - ⑩	電機大	(於工学院大)
"	⑦ - 5	"	(")
"	⑧ - 7	"	(")
日大農獸医	⑥ - 2	"	(")
"	⑩ - 17	"	(")
商船大	⑥ - 2	"	(")
"	⑦ - 5	"	(於神宮第二)
水産大	4 - ⑦	"	(於工学院大)
"	⑧ - 1	- "	(")
"	不戰勝	"	(")

この結果、勝点1で一部6位となり入替戦

入替戦 (小金井G)

6月13日 日本工業大学 ⑯-9 電機大
9月 5日 " 2-12 //
9月 6日 " 4-19 //

この結果、一部残留

秋季合宿（9月30日～10月2日） 小金井クラブハウス

20名参加 秋季リーグを目指し、実戦力養成

秋季リーグ戦（10月9日～10月～30日）於 工学院大G・神宮第一

水産大	3 - ④	電機大
学芸大	⑯ - 10	"
商船大	3 - ⑮	"
工学院大	7 - ⑯	"
日本農政医	⑯ - 3	"

この結果、勝点3となり一部3位

過去をふり返って

4 M 高木益夫

私の学生生活もまもなく幕をおろそうとしている。と同時に学生野球にも全く無縁のものとなろうとしているのである。今、野球生活4年間を思ううかべると、それは学生野球のメッカ、神宮。神宮でのプレーをめざした4年間であったと思う。一部昇格をめざしてがんばった時期が一番なつかしく思いおこされる。私も長年野球をやってきたけれど、あれほど野球を一生懸命にやった記録はない。こういう表現を用いると、他の時期を適当にやっていたよう聞えるが、そういうわけではない。自分なりに努力をしてきたつもりである。しかし、私の努力がたりなかつたのか、またまた素質がなかつたのか、技術的には何ら進歩することなく現在に至っている

ところで、クラブ活動には、①技術の向上、②チームワークの養成、③目的達成のための「努力する精神」の養成、④体力の養成、その他幾多の目的があると思う。しかし、我々アマチュア学生野球にとって大切なのは①ではなく②③④等であると思う。確かに、技術は向上するにこしたことはないのであるが、我々は野球をするために、運動するために大学に入学したのではない。2～3年前「大学に野球するために入学するなんて、言語道断、野球やりたきゃプロでやれ。」という意味の記事を読んだことがある。全く、そのとおりだと思う。私が野球部へ入るときある先輩に「我々は、プロ野球選手になるのではない。クラブ活動の中から、何

かを学びとってほしい」と言われた。現状は必ずしも思うようにいっていない気がする。一生懸命やってないというわけではないが、何かのんべんだりと野球を楽しんでいるようである。まあ、「それでいいんでは」と言わればそうだが。我々は、もう一度、「何故野球をやっているのか」を考えてみようではないか。最後に、高校野球は甲子園をめざしてがんばる。大学野球はリーグ優勝。大学選手権めざしてがんばる。その可能性は、後者の方が大きいようである。我々にできなかつたことを後輩に押しつけようとは思わないが、自分達のために目標を定めて努力してほしい。

最後に一言

4 M 庄司秀雄

秋のリーグ戦が終り、これで大学野球部での活動がほぼ全部終った。我々電機大野球部は、少なくとも私が入部してから、シーズンごとに確実に一歩一歩前進してきた。非常にうれしい。4年間頑張って本当によかったと思う。「電大野球部は俺の成長とともに成長してきた。」といつても過言ではない。しかし、こう心に一人思っている私でも、4年間悔は残らなかったとは強く心にいい切れない。大好きな野球でありながら、真剣に取りくめなかつたからだ。理由はいくらでもあるが、グチになるのでやめよう。私にとって印象の深かった事、①入部して最初に練習に参加した日、仲間がとにかく大勢いた。初めて硬球を投げた。グランドと家の遠いのがいやになった。②初めてヒットを打った時。2年の春の最終試合、相手は理科大。俺は得意の初球打ち。球は真直ぐ、コースは真中やや内側、高さは顔よりやや低い。大根切りスイング、打球は動きの緩慢な三遊間をゆっくり、いや、痛烈に抜けた。③皆によく知っている。3年の春の二部優勝を決めた試合、うれしかつたより、非常に疲れた試合であった。④ついこの間、4年の秋、俺の最後の舞台となつた商船大との試合。例のレフトフライを転んでヒットにしなやつ。



許可番号: K3 - 10-001

ミュンヘンオリンピックのシンボルマーク、スポーツ品に対する全面使用権が美津濃だけに認められました。
く品質でミュンヘンをめざす努力が勝ちえた世界的な信頼のしるします。
近く、こゝマークをしたスポーツ品が、つづつご用ひ見えします。さらに向上する美津濃製品の今後に期待下さい。

世界の四大スポーツ品メーカー
美津濃
 大阪本社 = 淀屋橋
 東京支店 = 神田小川町